

## マイナビ進学会員

### 「高校生の進路意識と進路選択に関するアンケート調査」報告書

マイナビ進学総合研究所は、2024年3月卒業の高校生に対し「高校生の進路意識と進路選択に関するアンケート調査」を実施いたしましたので、下記の通りご報告いたします。

#### 【調査概要】

- 調査名：高校生の進路意識と進路選択に関するアンケート調査（2024年3月実施）
- 調査方法：メールにて調査告知を行い、WEBフォームにて回答
- 調査回収期間：2024年3月25日～2024年3月31日
- 調査対象者：2024年3月に卒業予定の高校3年生（マイナビ進学会員登録者）
- 有効回答者数：3,195名（WEB調査）  
（進路決定先・・・大学：2,479名／短期大学：101名／専門学校：342名／  
その他：273名）

#### 調査結果トピックス

##### ・志望校選びの際「重視するポイント」は、「学べる内容」

大学・専門学校への進学者は「学べる内容」が、短期大学への進学者は「取れる資格」が前年同様トップ項目に。

##### ・進学する学校への資料請求時期は「3年生4～6月」、来校・出願決定時期は「3年生4～9月」

時期の前倒し傾向が一部見られる。来校・出願決定時期について前年は進学学校区分を問わず「3年生7～9月」が最多だったが、今年は大学・短期大学への進学者で「3年生4～6月」が最多に。早期入試の利用割合拡大が背景と考えられる。

##### ・大学では「3年生4～6月」、専門学校では「3年生7～9月」の「来校」が、進学先を決める大きな要因か

進学先の学校は、それ以外の検討校に比べて、上記時期の来校割合が大きく上回っている。

本資料に掲載のデータ、図版等の無断転載を禁じます。資料のご利用やご質問等に関しては下記までご連絡ください。

株式会社マイナビ 未来応援事業本部 マイナビ進学総合研究所

E-mail：ms-souken@mynavi.jp

URL：https://souken.shingaku.mynavi.jp

## INDEX

### **1 学校選びについて…… P3**

- ・志望校選びの際「重視するポイント」
- ・「学べる内容」のうち、あなたが重視した内容
- ・学校選びの際の候補校数と受験した学校数（平均）

### **2 進学先の学校について…… P5**

- ・その学校を進学先として選んだ理由
- ・学部学科選びの理由
- ・進学先の学部・学科系統／分野系統
- ・進学する学校を知った時期（月別/累計）
- ・進学する学校へ資料請求をした時期
- ・進学する学校のオープンキャンパス・体験入学へ参加した時期
- ・進学する学校へ出願を決めた時期（月別/累計）
- ・高校卒業後、進学する際の住まいについて

### **3 進学先以外の進学候補学校について…… P10**

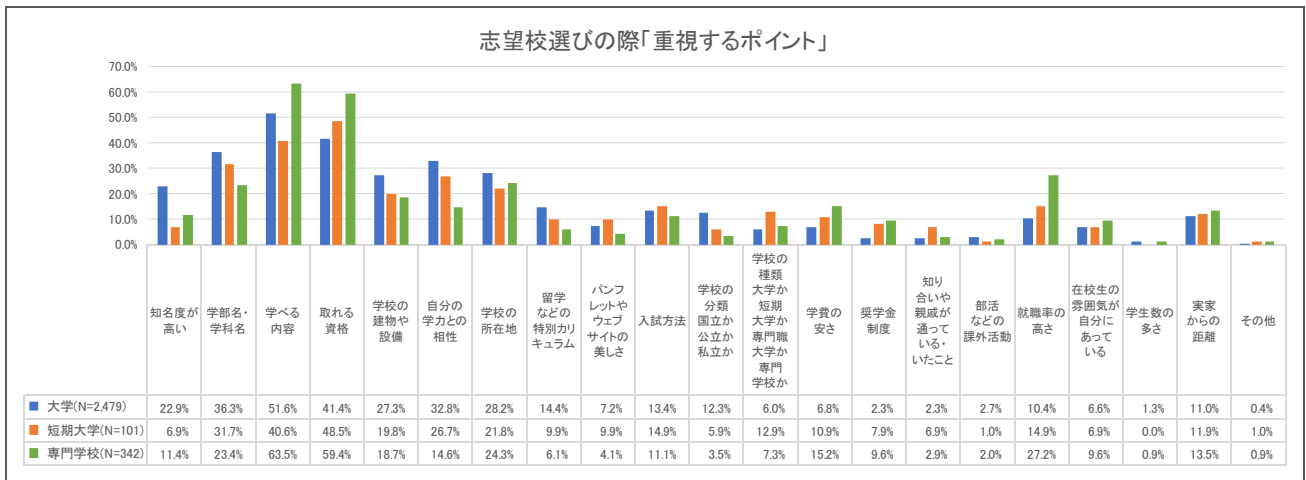
- ・学校のことを知った時期（初期認知）
- ・学校へ資料請求をした時期
- ・オープンキャンパス等のイベントへの参加時期
- ・オープンキャンパス等のイベントへ参加した割合
- ・出願を決定した時期
- ・合格したが入学しなかった理由

### **4 進路選択・進学後の学校生活について…… P17**

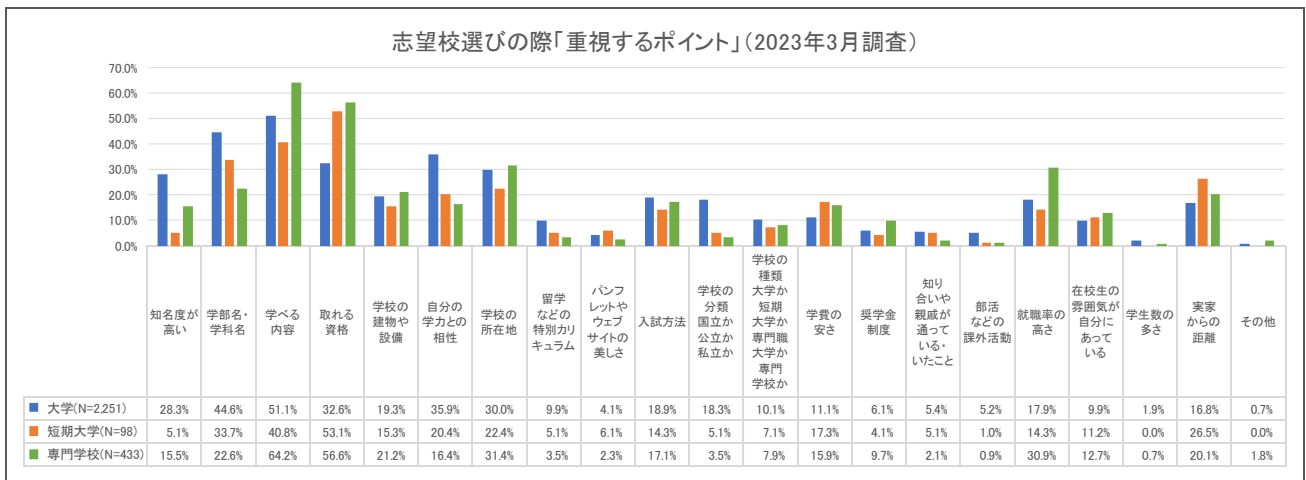
- ・受験校を選んだ時の不安や悩み
- ・入学する直前の今の不安や悩み
- ・進路選択の満足度（100点満点評価）
- ・進学後の学校生活で得たいもの

## 1 学校選びについて

志望校選びの際「重視するポイント」について聞くと、大学・専門学校では「学べる内容」(大学 51.6%、専門学校 63.5%)が、短期大学では「取れる資格」(48.5%)が、それぞれ前年同様トップの項目となった。大学において、今回は2位に「取れる資格」がランクインした。昨年比で+6.9ptと最も高い上げ幅。これまでは「学部名・学科名」の次に「取れる資格」が来ていたが、この4年間で初めて「取れる資格」が「学部名・学科名」を上回った。先行き不透明な時代に、進学先に求めることは安定した職業や就職「率」そのものではなく、スキルを身につけ、自分のキャリアに繋がることではないかと考えられる。何を学び身につけたかを証明するものとして、資格取得が志向されているのかもしれない。

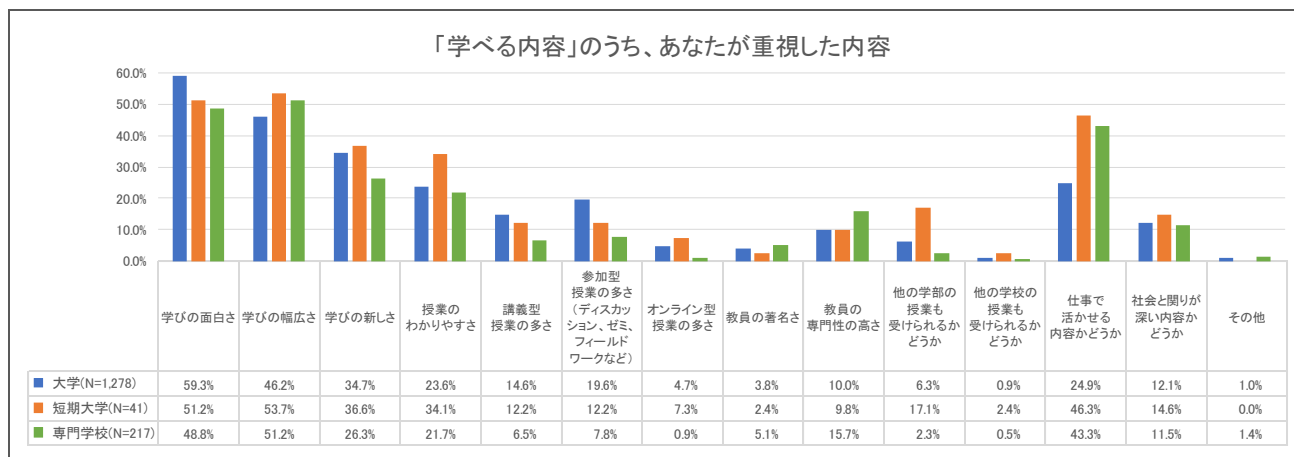


▼下記、2023年3月調査資料より掲載



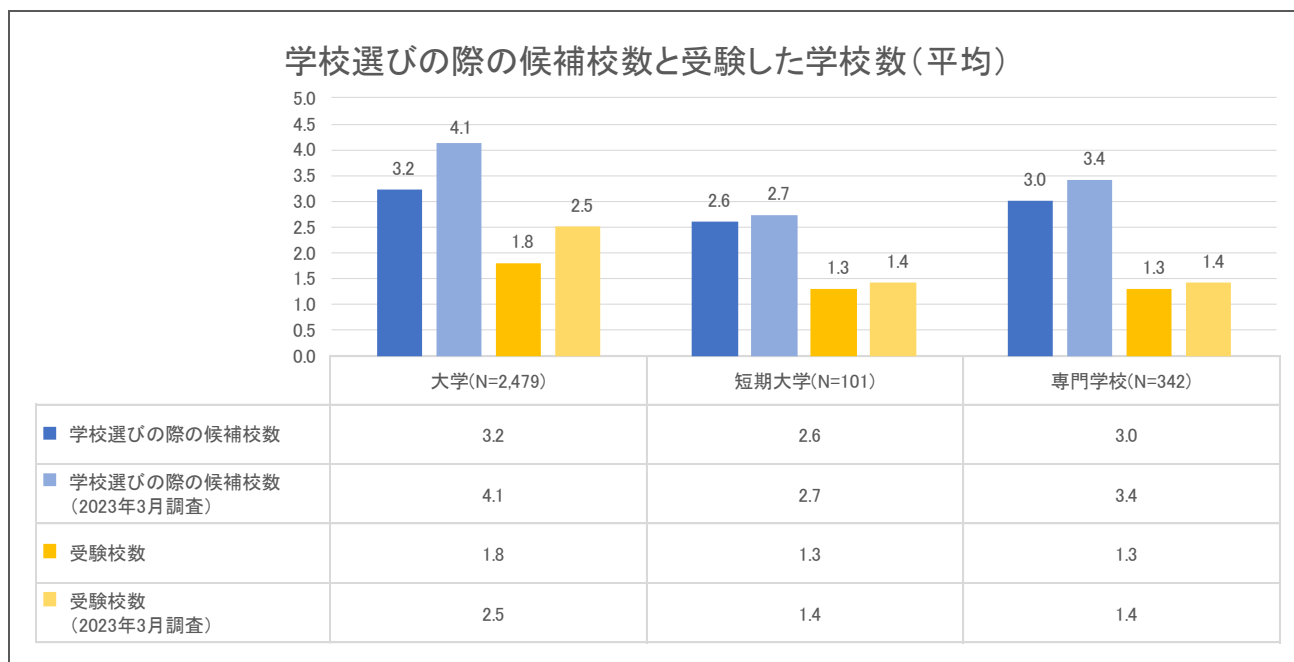
大学・専門学校で最も回答割合が高かった「学べる内容」について深掘りしていくと、大学・専門学校ともに「学びの面白さ」「学びの幅広さ」が重要視されている。専門学校で前年トップだった「仕事で活かせる内容かどうか」は3位に後退。

※志望校選びの際「重要するポイント」で「学びの内容」を選択した人のみに回答してもらった。



また、学校選びの際の候補校数と受験した学校数の平均を算出すると、大学では約3.2校の候補から約1.8校を受験し、短期大学では約2.6校の候補から約1.3校を受験、専門学校では約3.0校の候補から約1.3校を受験という結果となった。

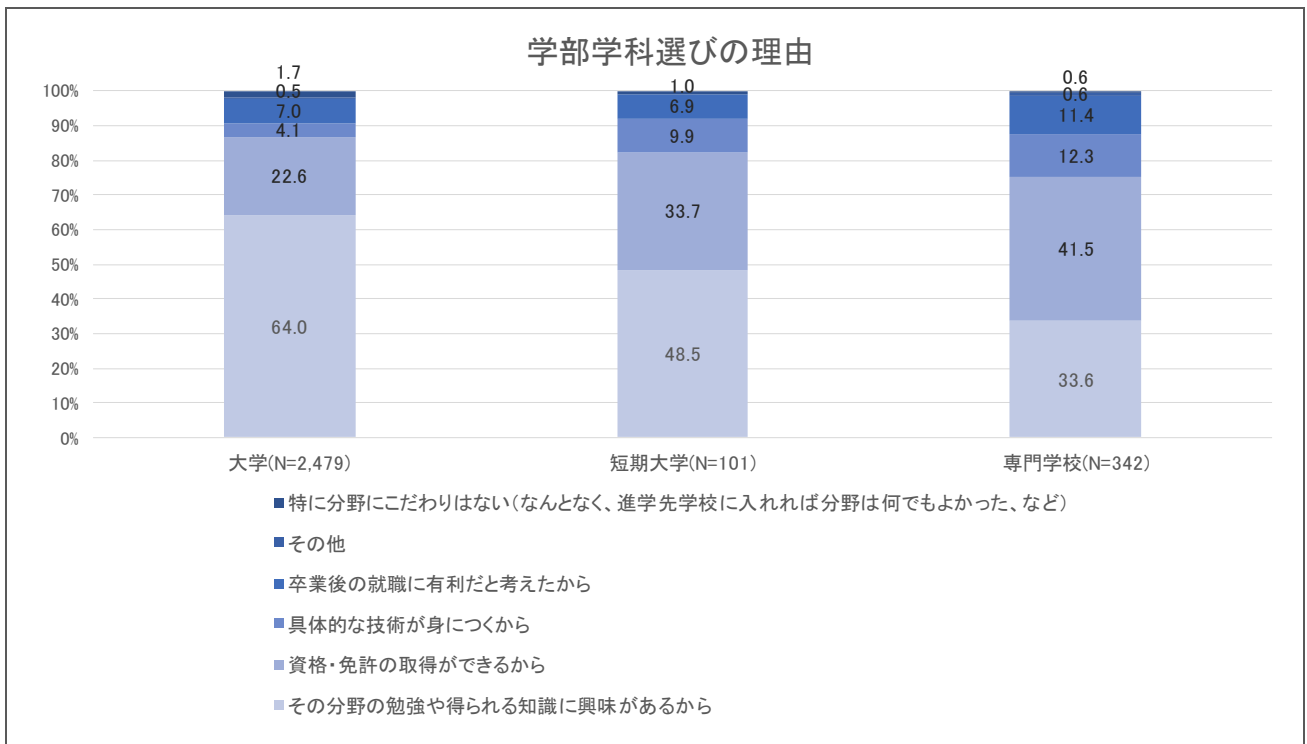
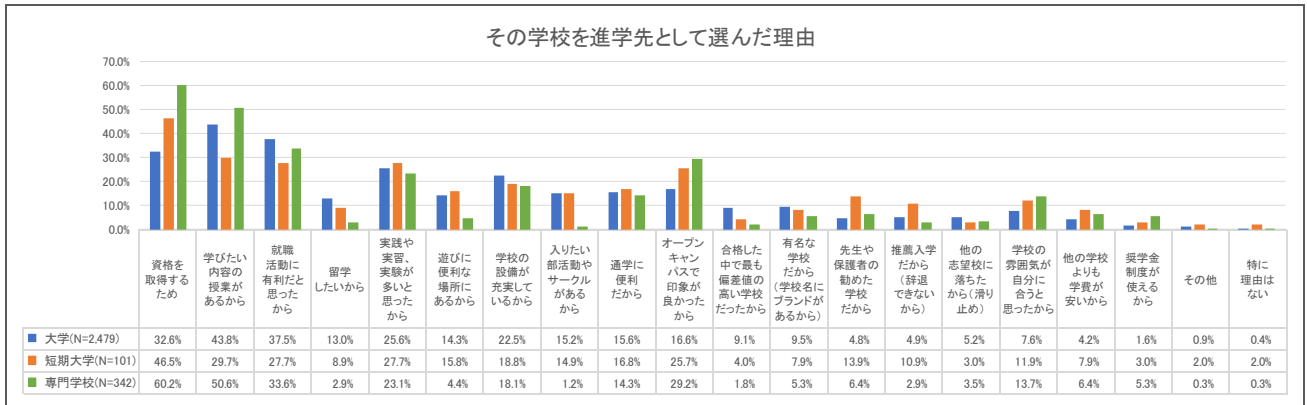
学校数は前年に比べて低下傾向で、大学の候補校数は前年の約4.1校に対し、今年は約3.2校に減少している。

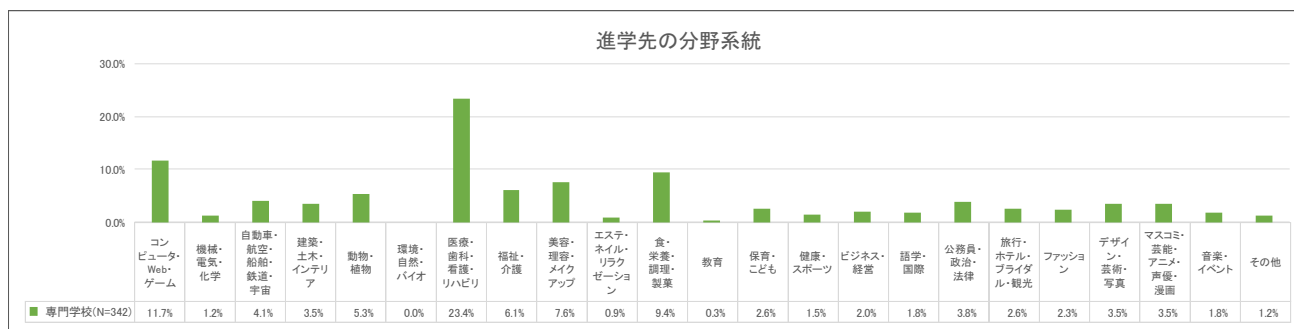
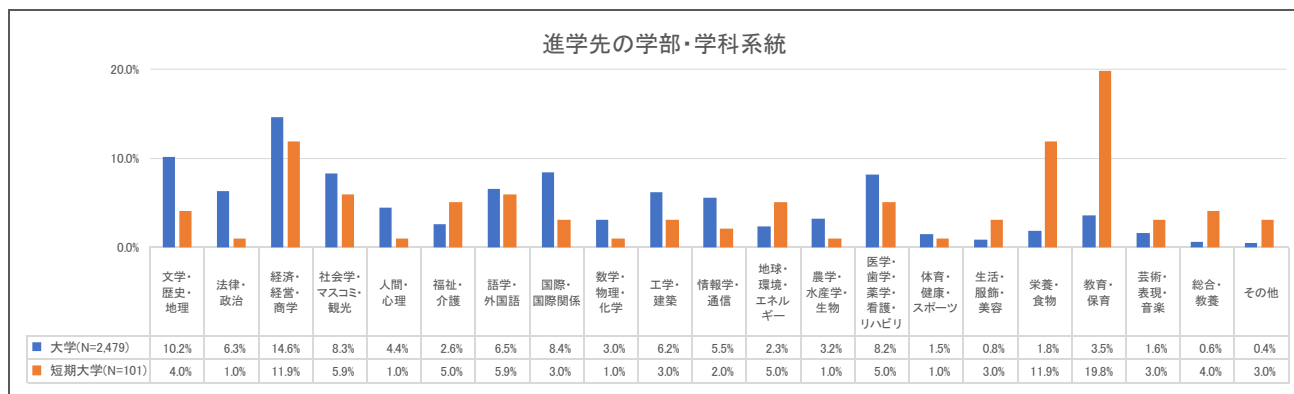


## 2 進学先の学校について

進学先としてその学校を選んだ理由を聞くと、「学びたい内容の授業があるから」「資格を取得するため」といった、志望校選びの際「重視するポイント」と似た項目が上位に並んだ。

学部学科選びにおいても、同様に「その分野の勉強や得られる知識に興味があるから」「資格・免許の取得ができるから」の回答が多くを占めた。

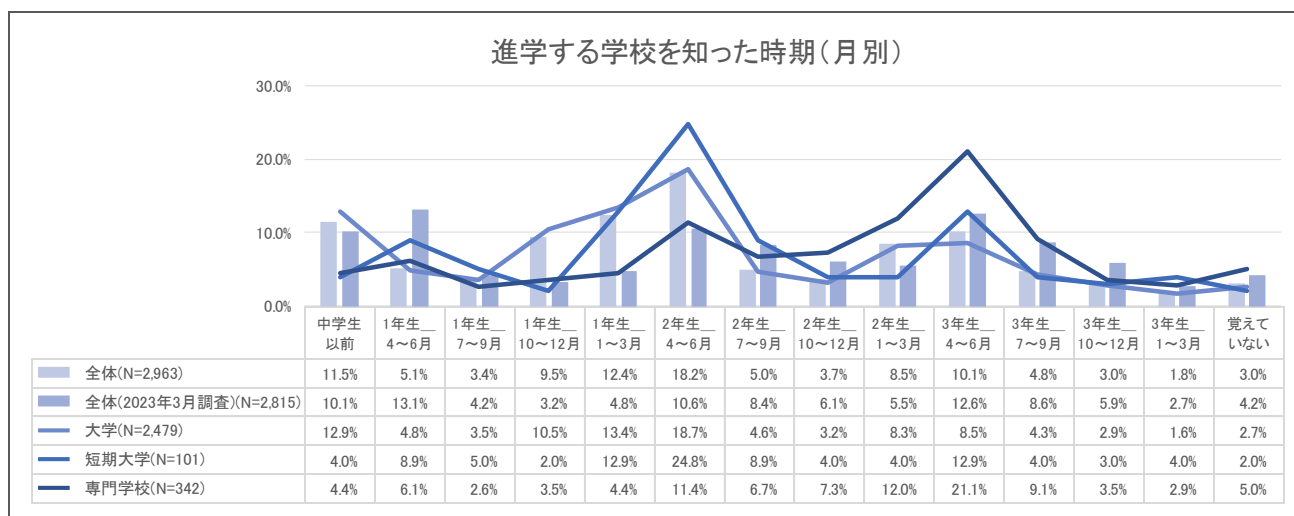


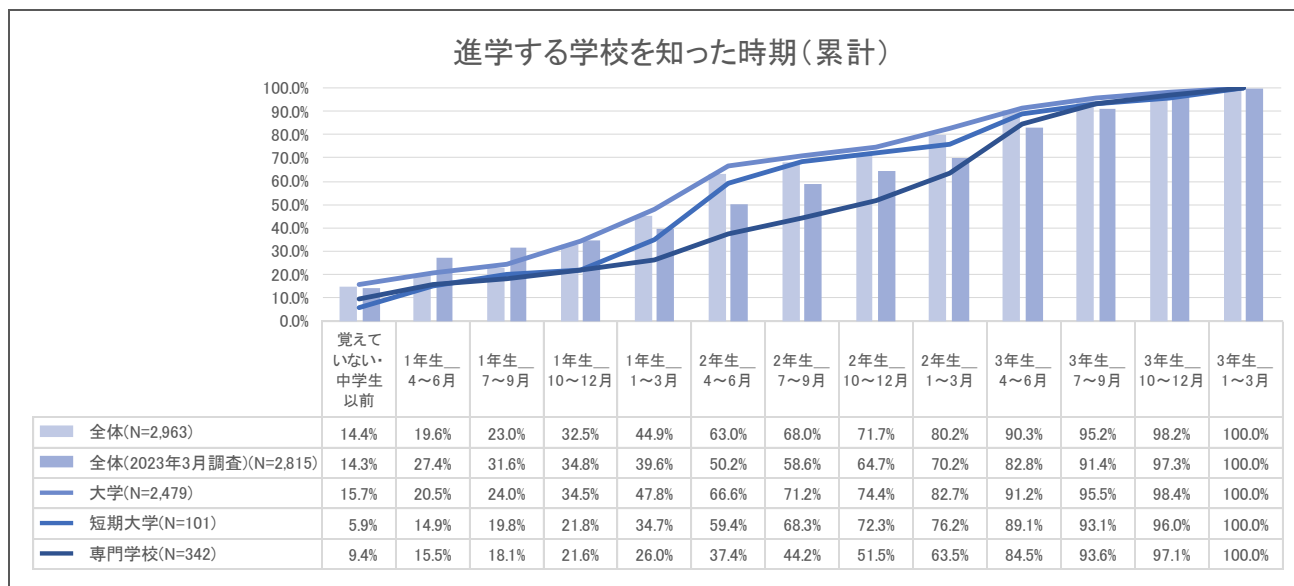


次に、進学先として選んだ学校に対する認知時期・資料請求時期・イベント参加時期・出願時期を調査した。

認知が最も多かった時期は、大学・短期大学では「2年生 4～6月」(大学 18.7%、短期大学 24.8%)、専門学校では「3年生 4～6月」(21.1%)となり、大学・短期大学と専門学校とで約1年の違いが見られた。

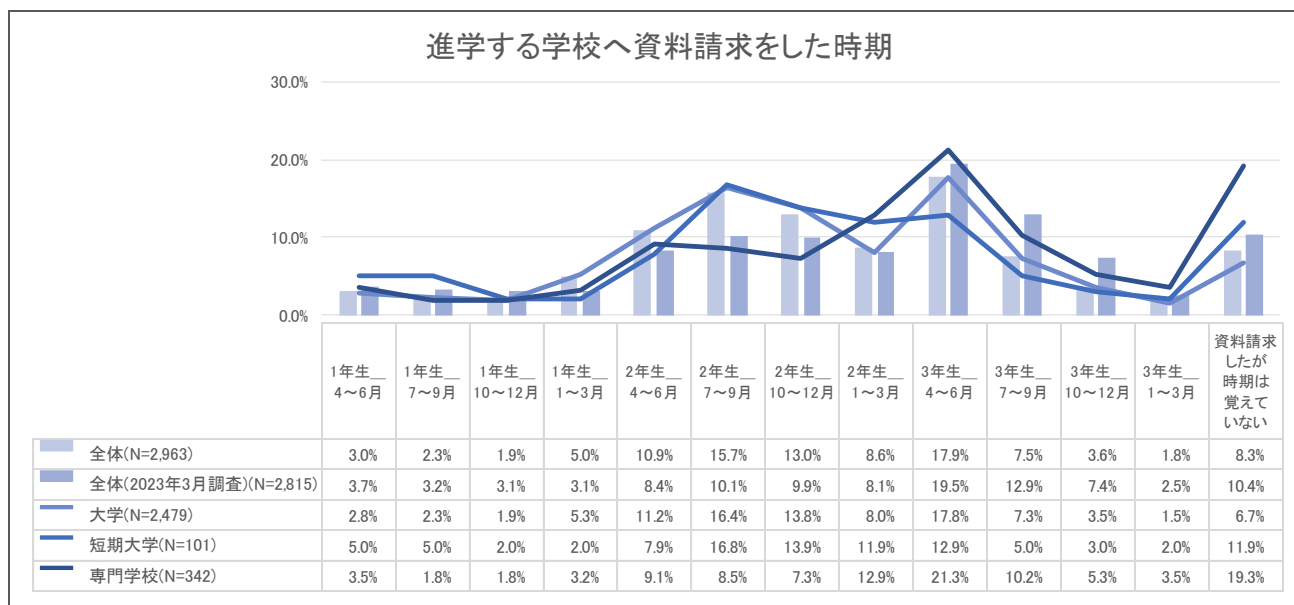
認知時期を月別に見ると1年生 7月～2年生 6月の時期で、昨年よりも今年の回答割合がかなり高い。この影響か、認知累計では、「1年生 7～9月」までは昨年の方が早く積みあがるが、その後は一貫して今年の方が認知累計値が高い。

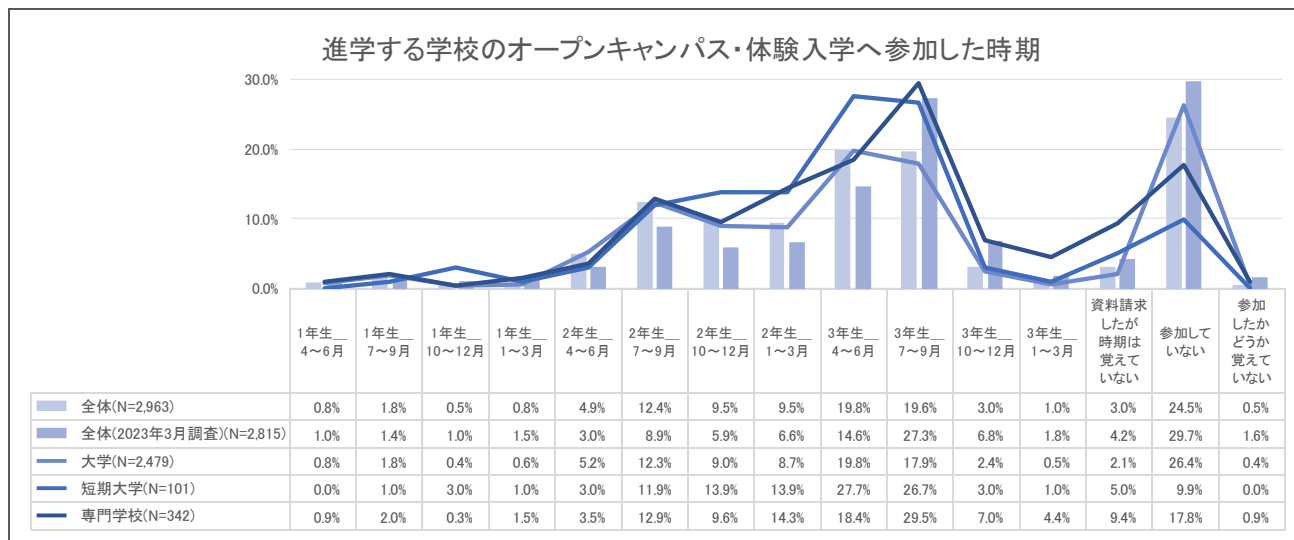




進学する学校へ資料請求をした時期については、大学・専門学校では「3年生 4~6月」(大学 17.8%、専門学校 21.3%)、短期大学では「2年生 7~9月」(16.8%)が最も高い割合となった。前年と比較すると「2年生 4~12月」の時期が微増傾向にある。

オープンキャンパス・体験入学へ参加した時期については、大学・短期大学では「3年生 4~6月」(大学 19.8%、短期大学 27.7%)が、専門学校では「3年生 7~9月」(29.5%)が最も高い割合となった。「参加していない」割合は前年の 29.7%に対し、今年は 24.5%と減少しており、感染症緩和で参加割合は引き続き上昇傾向にある。

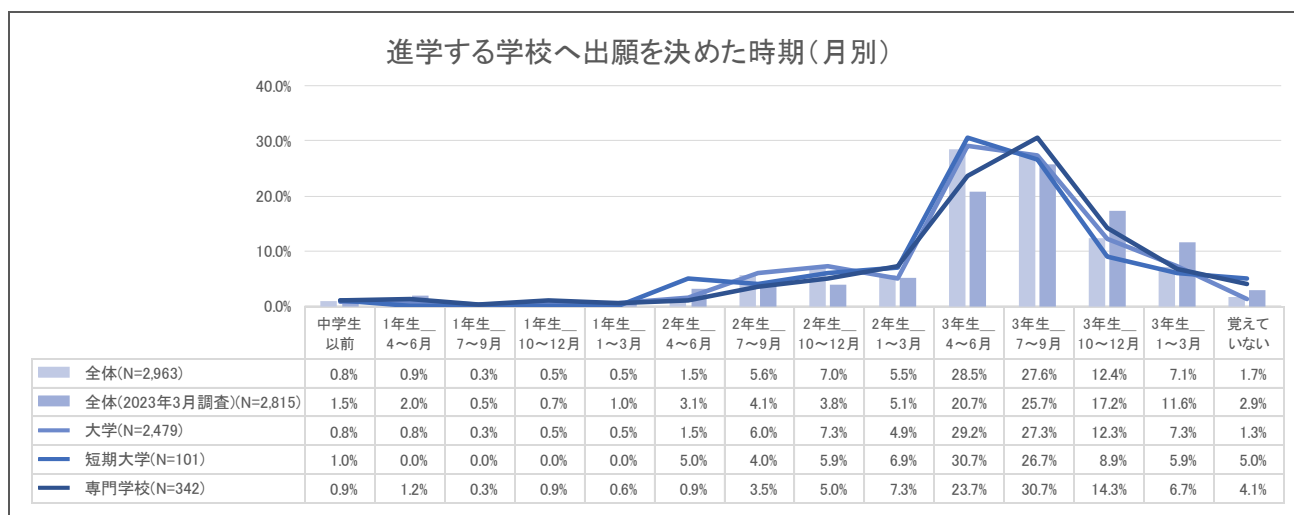




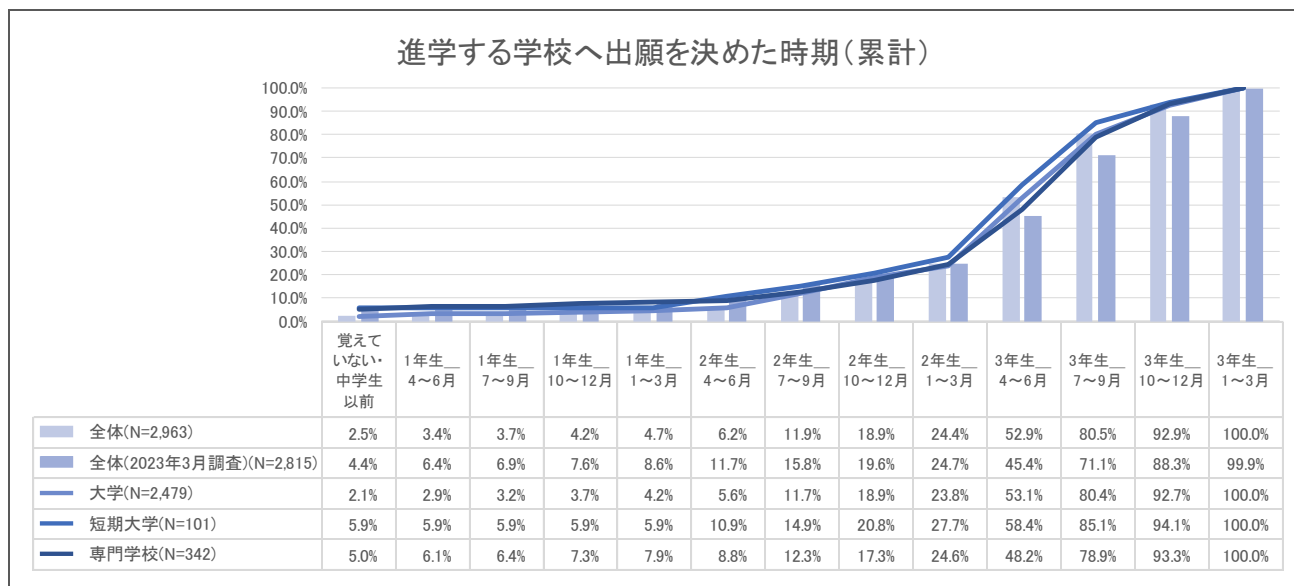
進学する学校へ出願を決めた時期については、大学・短期大学では「3年生 4～6月」(大学 29.2%、短期大学 30.7%)、専門学校では「3年生 7～9月」(30.7%)が最も高い割合となった。

前年最も多かった「3年生 7～9月」からやや早い段階で出願校を決定した様子が伺える。

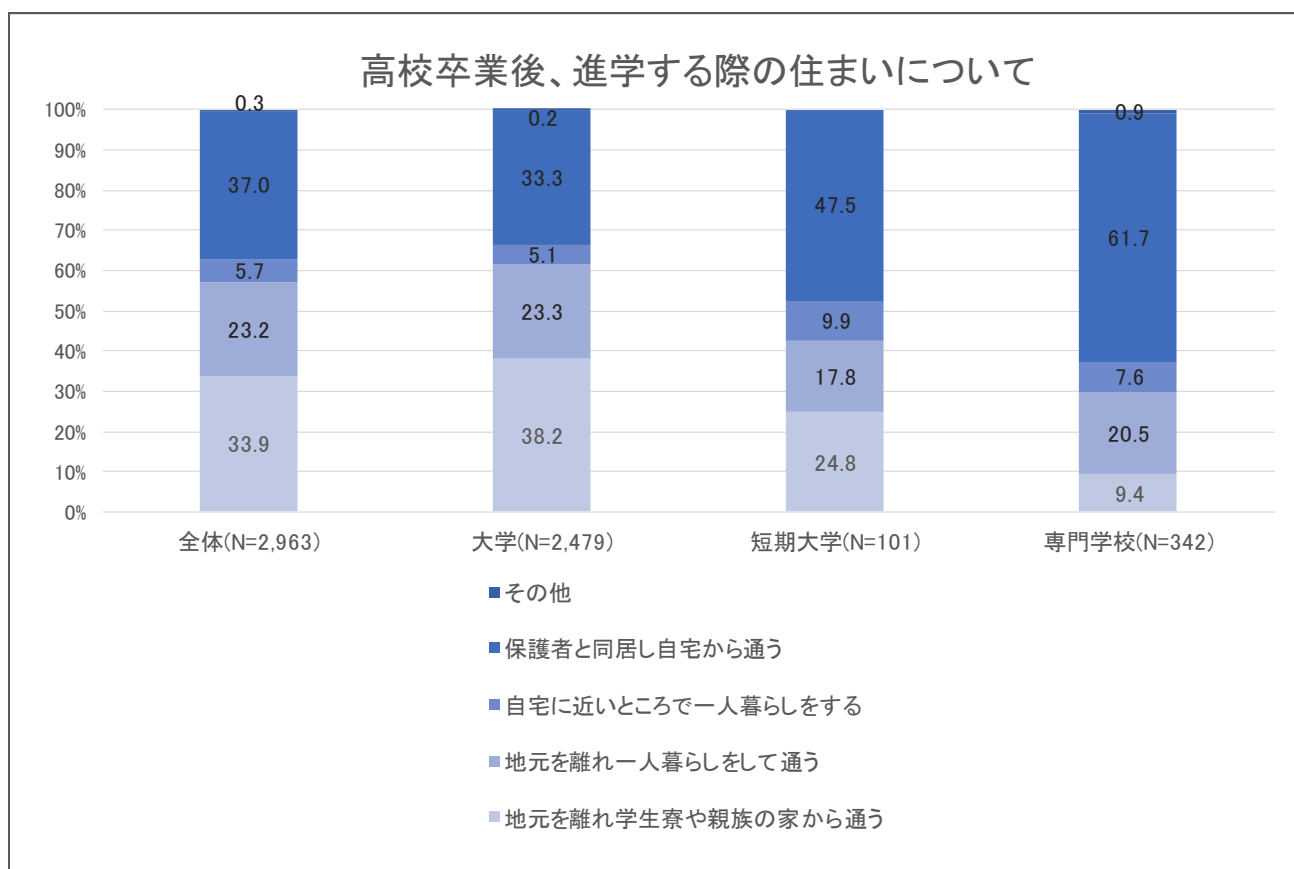
同時期の累計出願決定率は短期大学 58.4%、大学 53.1%、専門学校 48.2%の順で、この順番に出願校決定が早い傾向にあることがわかる（前年は短期大学、専門学校、大学の順）。







高校卒業後の住まいについては、大学では「地元を離れ学生寮や親族の家から通う」(38.2%)が、短期大学・専門学校では「保護者と同居し自宅から通う」(短期大学 47.5%、専門学校 61.7%)が最多回答となった（前年はいずれの進学先区分も「保護者と同居し自宅から通う」が最多回答）。



### 3 進学先以外の進学候補学校について

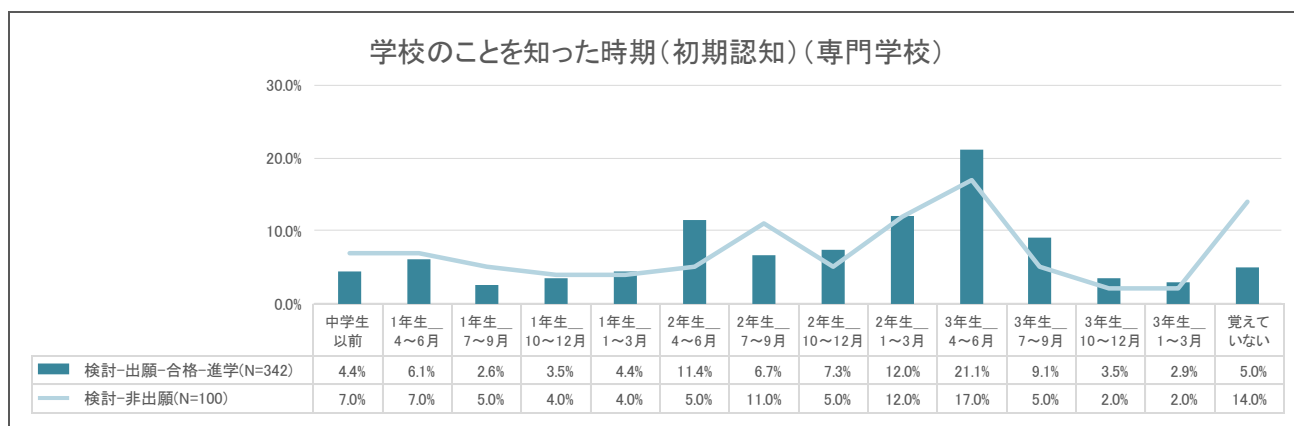
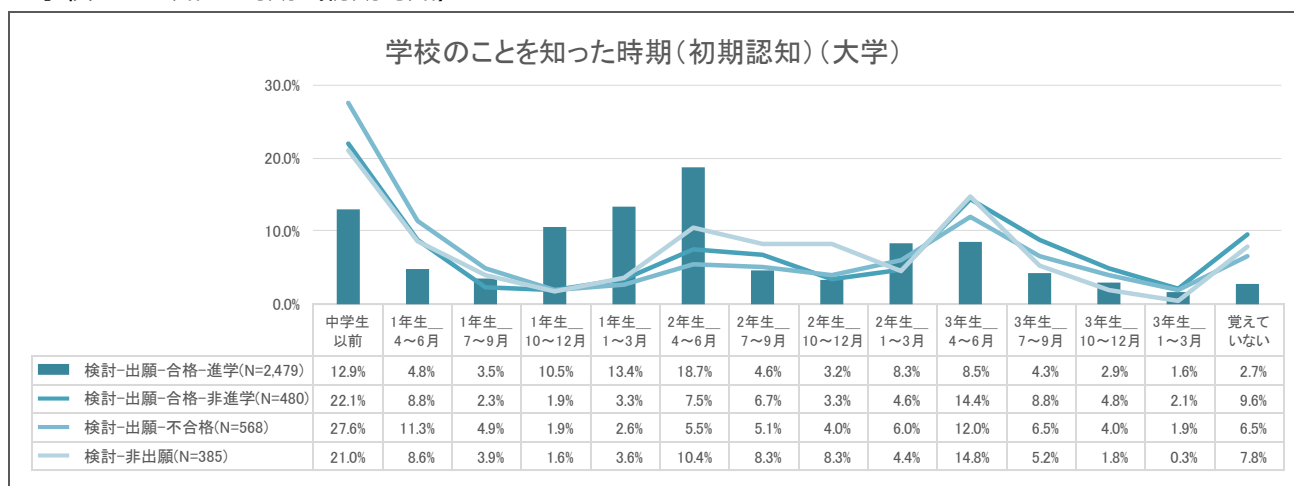
進学先以外の進学候補学校についても、認知時期・資料請求時期・イベント参加時期・出願時期を調査した。さらにその結果を進学候補学校の学校区分ごと（大学・短期大学・専門学校）および出願・合格・進学状況ごと（※）に分けて集計した。

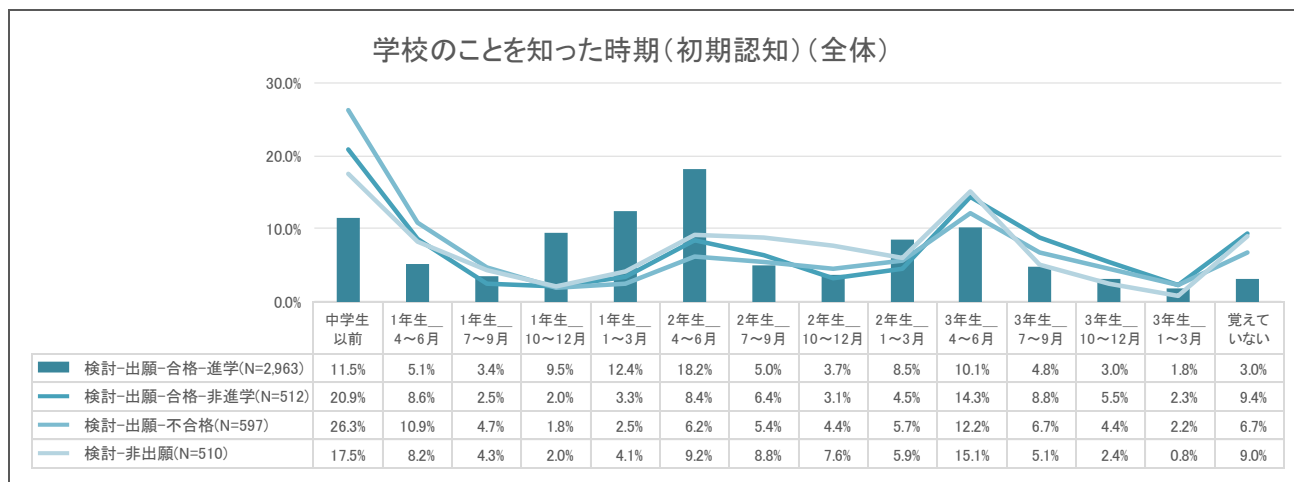
※「検討・出願・合格し、進学した学校」、「検討・出願・合格し、進学しなかった学校」、「検討・出願し、合格しなかった学校」、「検討し、出願しなかった学校」の4つに分類。

※短期大学など、N数が少ない分類はグラフ作成を割愛。

認知については、大学では、「検討・出願・合格し、進学した学校」がそれ以外に比べて、「中学生以前」は低く「1年生10月～2年生6月」が高い。「1年生10月～2年生6月」の間に知ってもらい、その後継続的にフォロー・PRすることは出願や進学に影響を及ぼすと言えそうか。

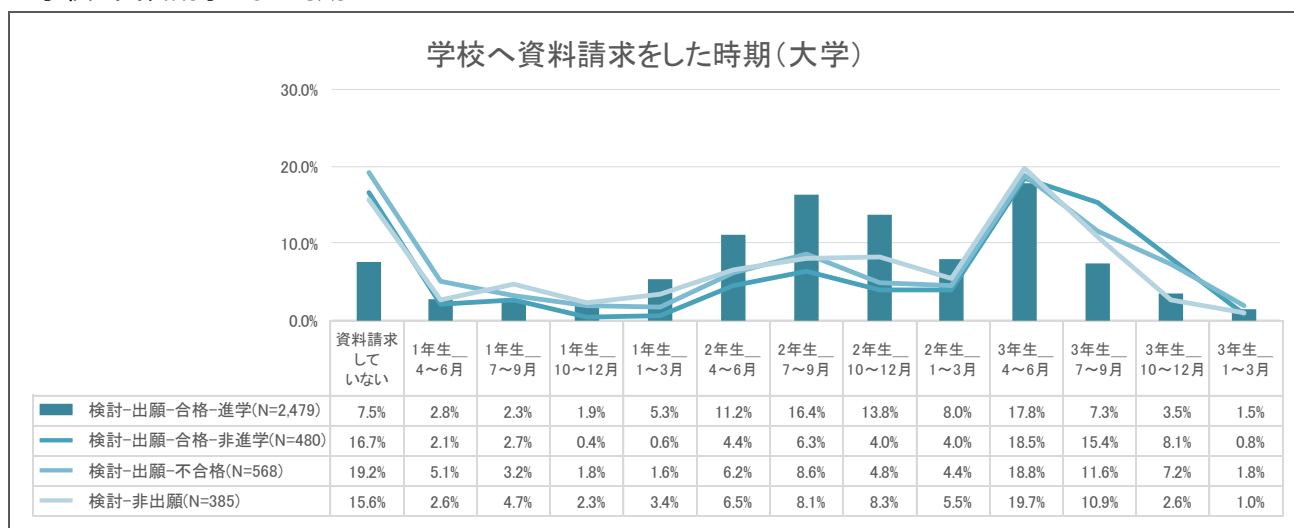
#### ▼学校のことを知った時期（初期認知）

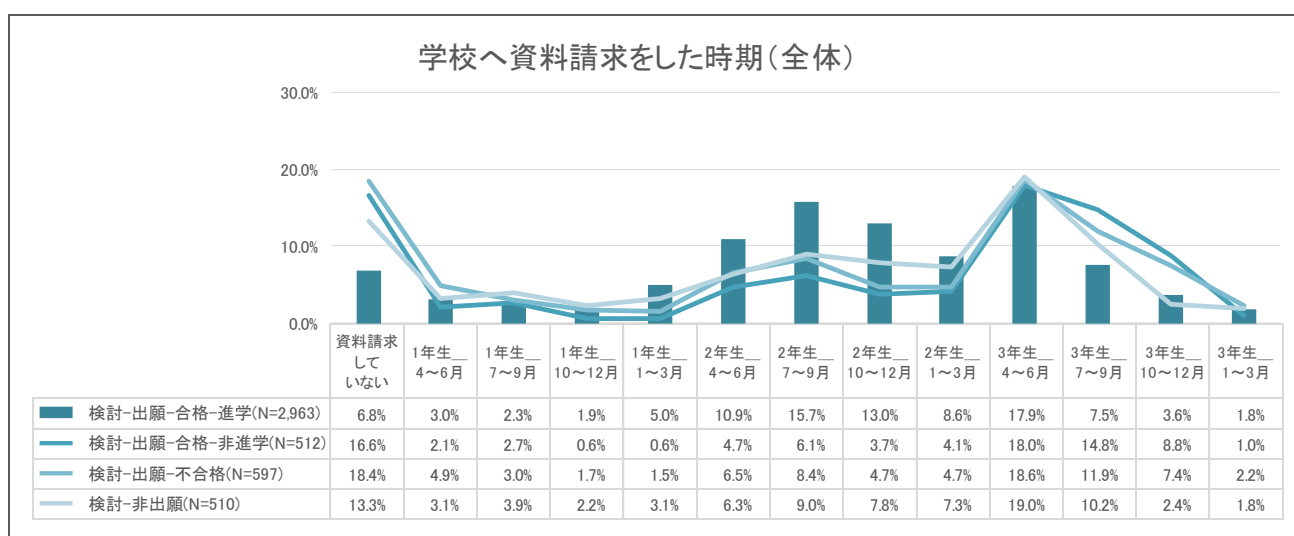
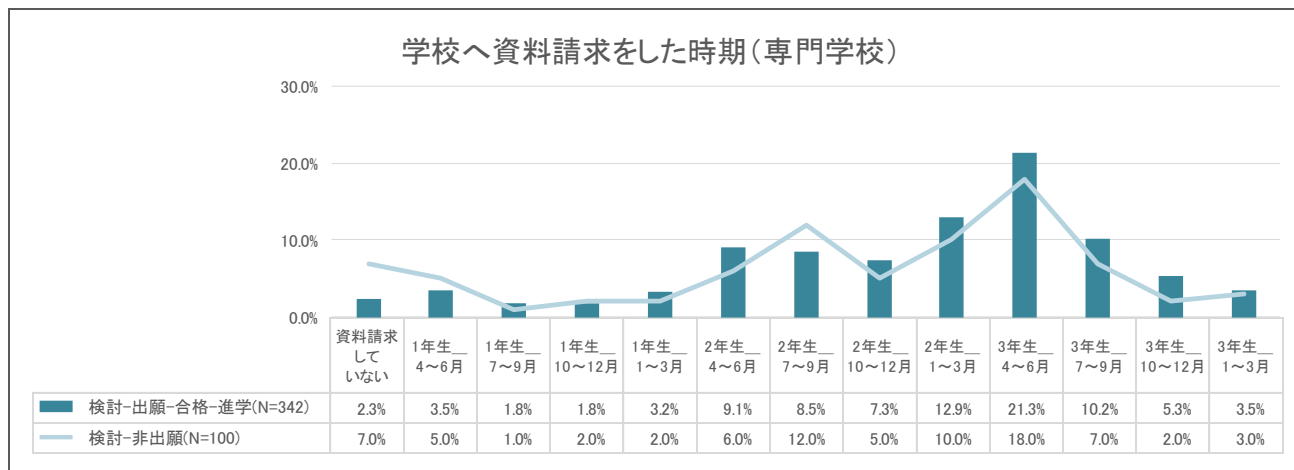




資料請求については、大学では、「検討・出願・合格し、進学した学校」がそれ以外に比べて、「2年生 4~12月」が高い。2年生での資料請求行動は「出願／非出願」や「進学／非進学」に影響を与えていると考えられる。

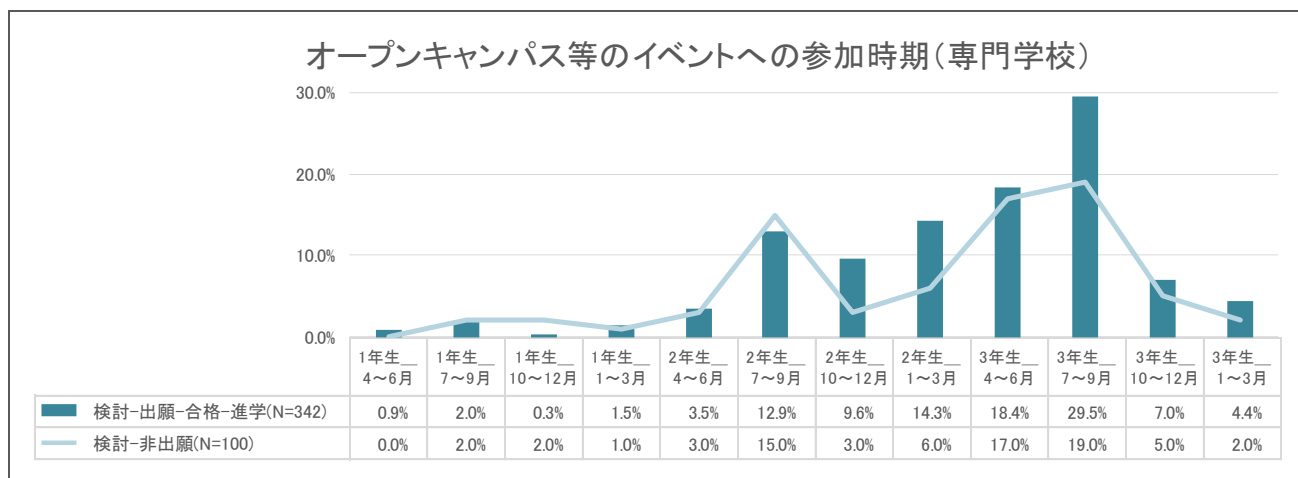
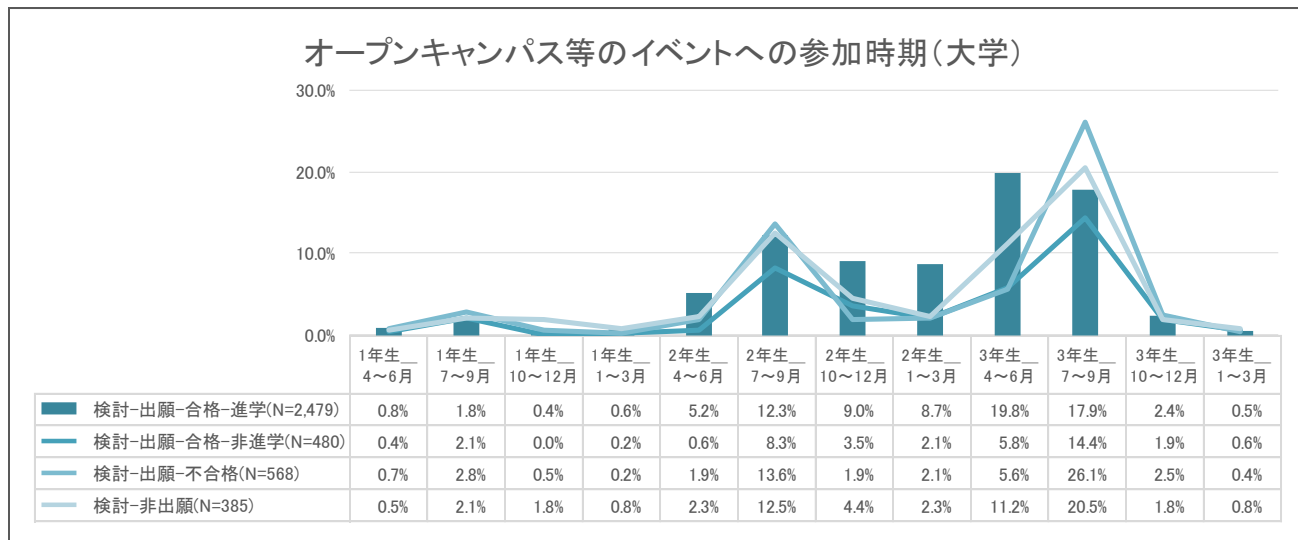
▼学校へ資料請求をした時期

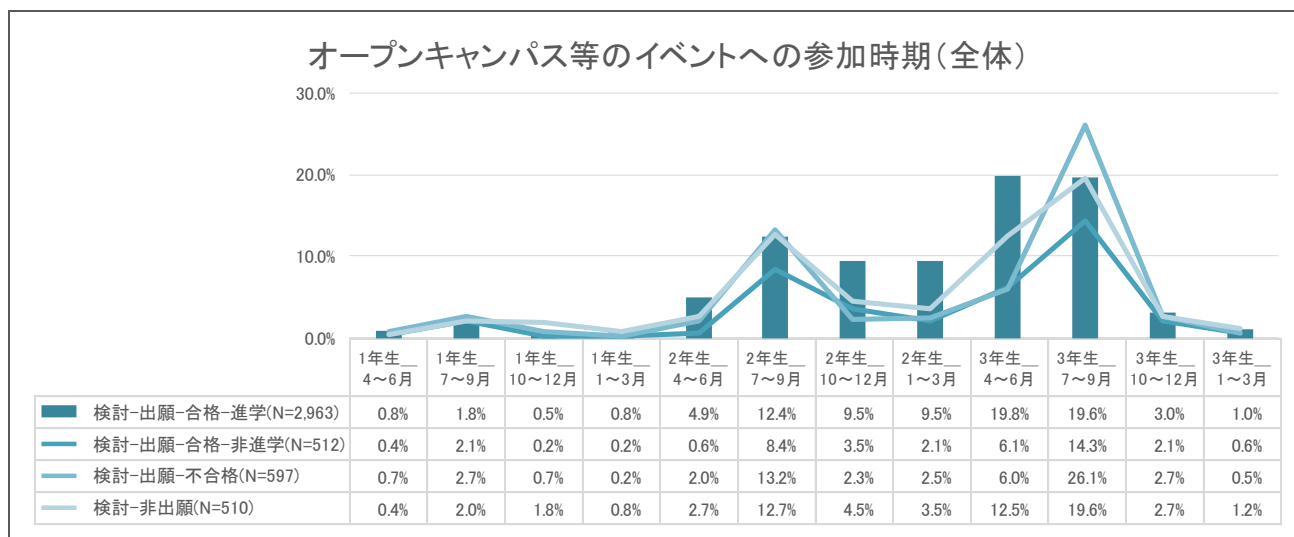




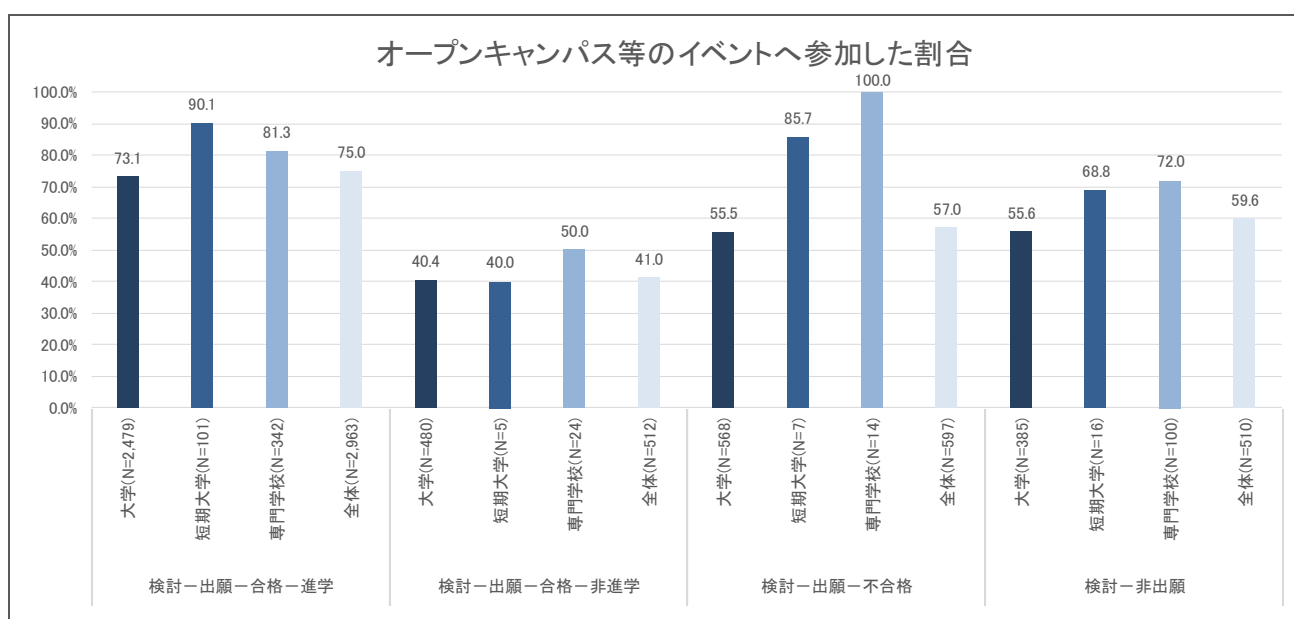
オープンキャンパス等のイベントへの参加時期は、大学では「3年生 4～6月」、専門学校では「3年生 7～9月」において、「検討・出願・合格し、進学した学校」がそれ以外に比べて高く、大きな差が見られた。大学においては、「3年生夏のイベント参加」よりも、一層呼びかけを早くし3年生の1学期の内にイベントに来てもらうことが重要と言えそうだ。

▼オープンキャンパス等のイベントへの参加時期



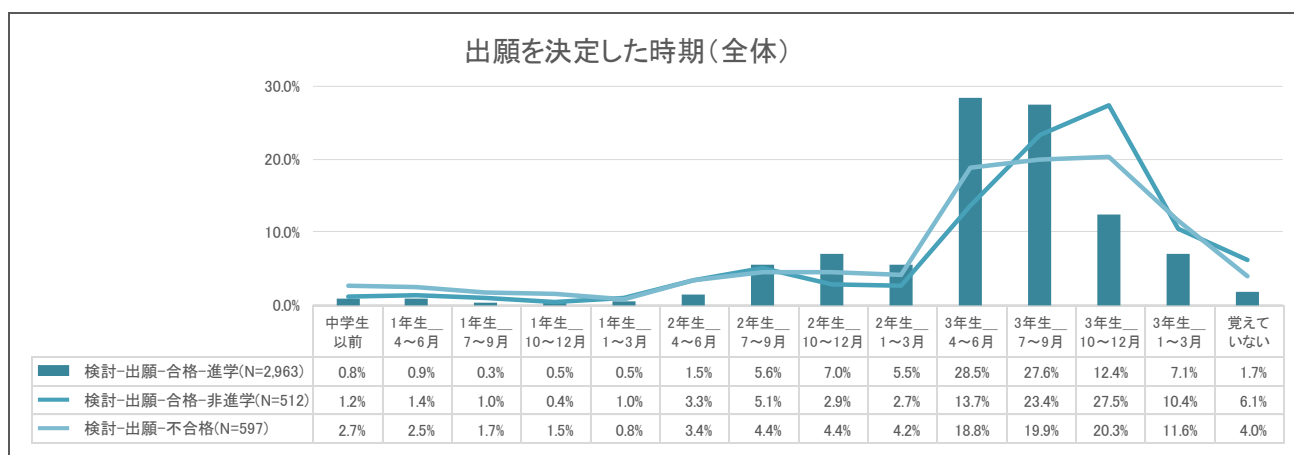
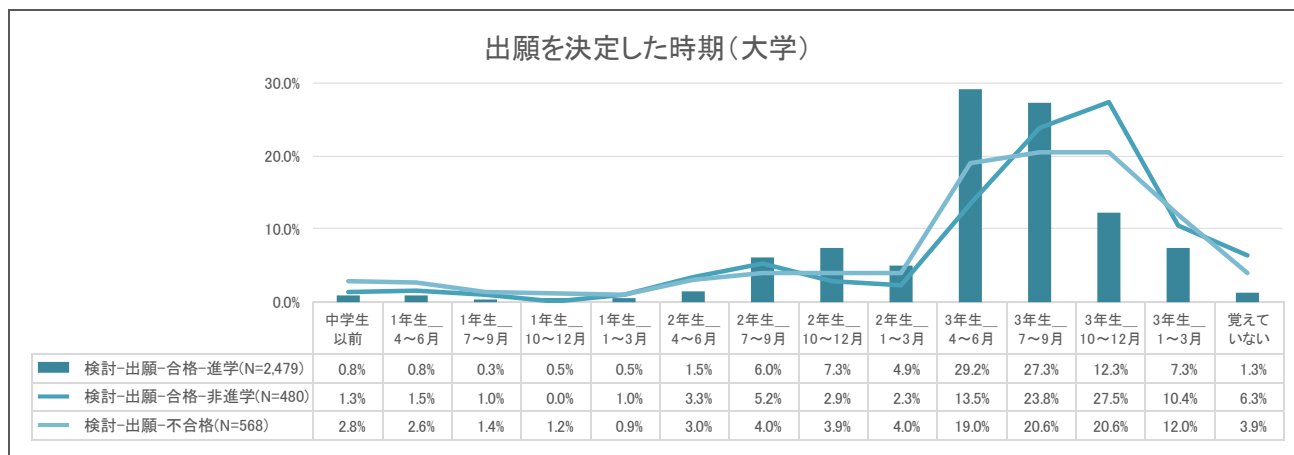


▼オープンキャンパス等のイベントへ参加した割合



出願を決めた時期は、大学では「3年生 4～6月」において、「検討・出願・合格し、進学した学校」がそれ以外に比べて高く、大きな差が見られた。秋頃に出願を決めた学校よりは、春夏の間に出願を決定した学校の方が、進学先として選んでもらえる率が高いことがわかる。

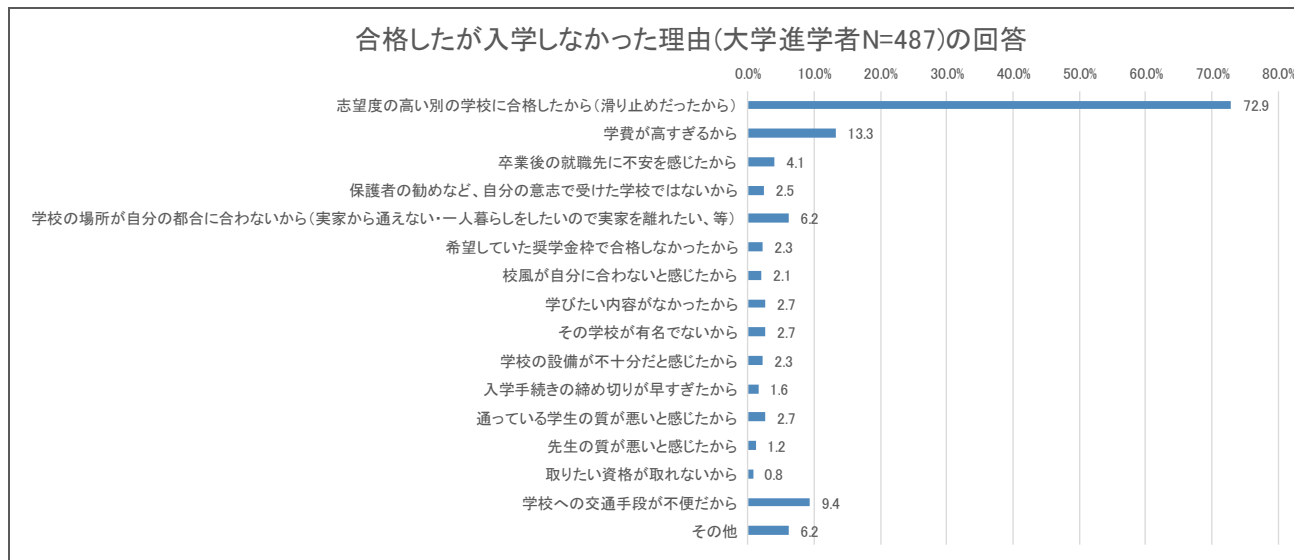
▼出願を決定した時期



合格したが進学しなかった理由については、「志望度の高い別の学校に合格したから（滑り止めだったから）」の回答が7割以上を占めた。（※）

※大学進学者のみ抜粋

▼合格したが入学しなかった理由

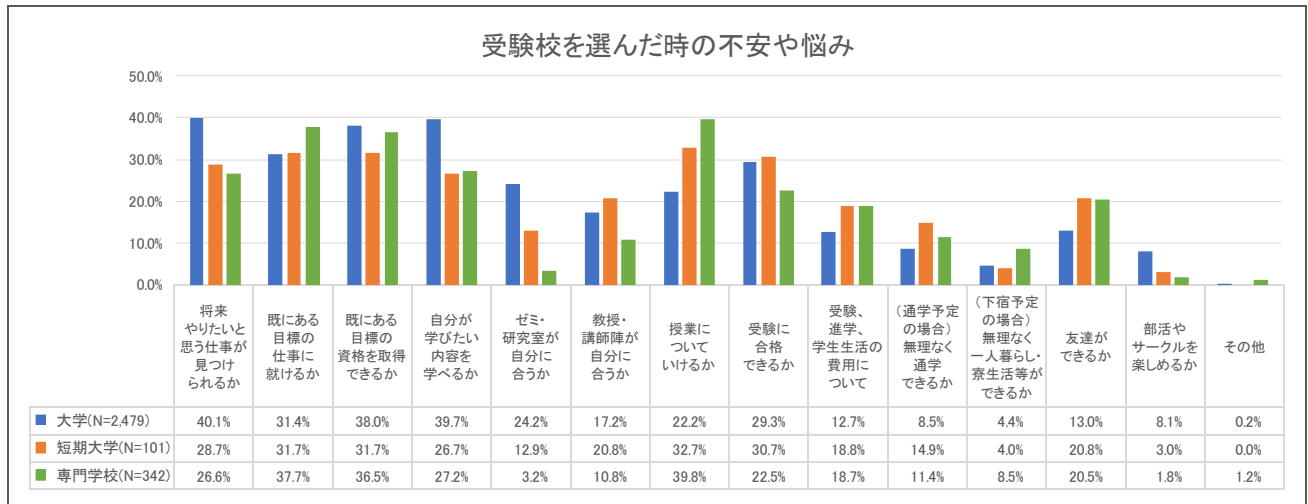


(以下、余白)

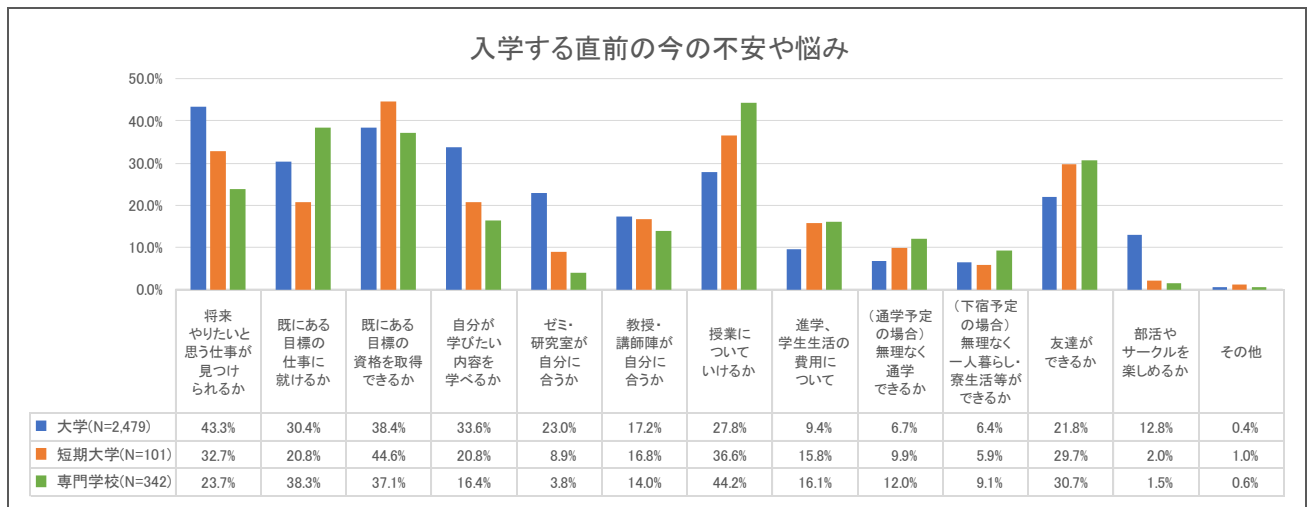


## 4 進路選択・進学後の学校生活について

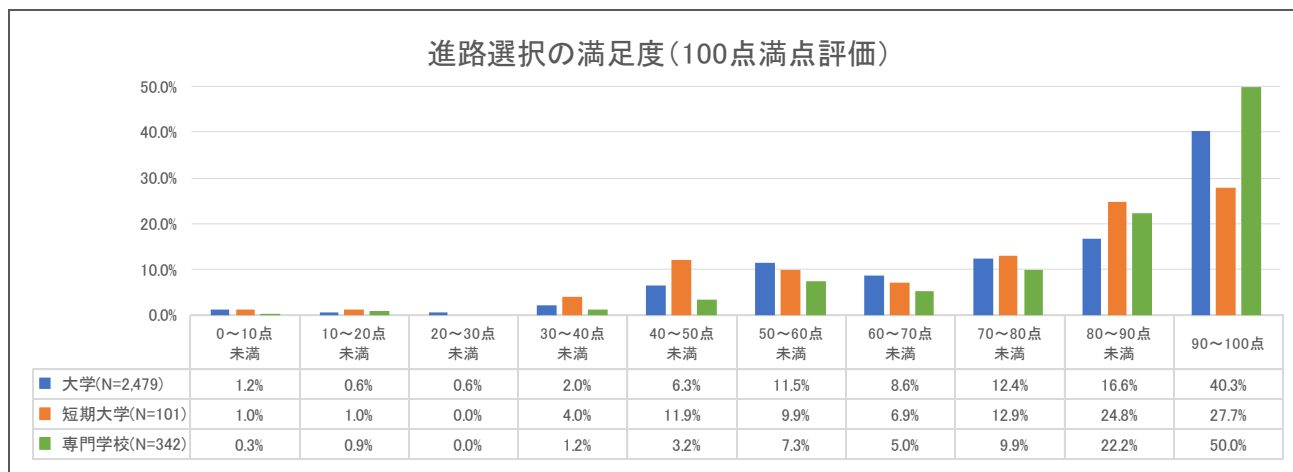
受験校を選んだ時の不安や悩みについて聞くと、大学では「将来やりたいと思う仕事が見つけられるか」(40.1%)が、短期大学・専門学校では「授業についていけるか」(短期大学 32.7%、専門学校 39.8%)がトップとなった。短大・専門学校は専門的な知識やスキルを身につけるための進学ともあり、授業に臨む自分を強くイメージしつつも、講義・実習のハードさに不安を感じている様子が窺える。



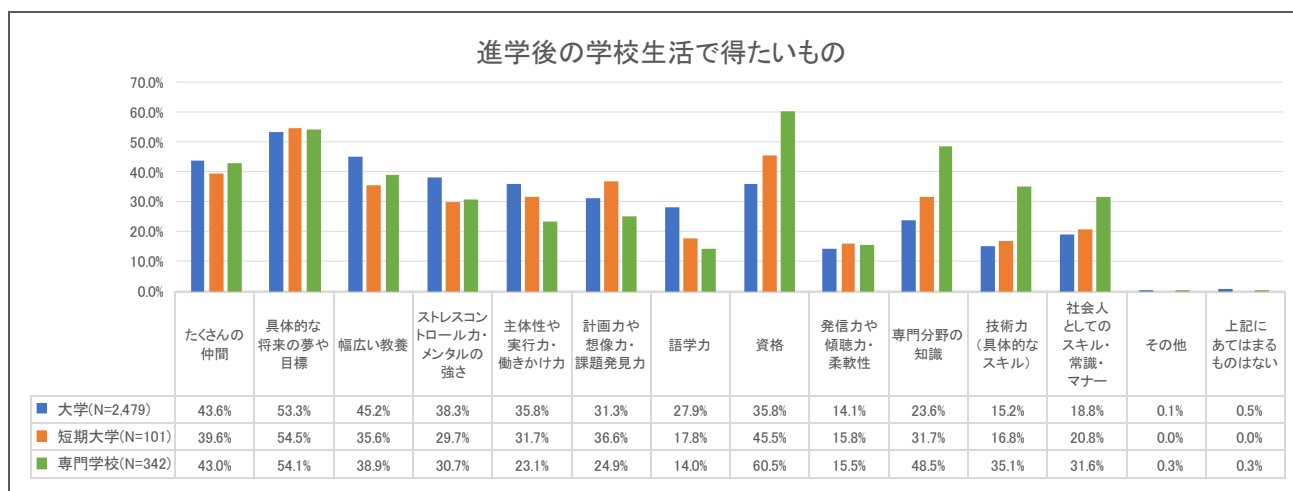
入学する直前の今の不安や悩みについても、同様に聞いた。全体の回答傾向は「受験校を選んだ時の不安や悩み」の回答傾向とそう変わらない。そこで受験校を選んだ時と、入学する直前とで、不安や悩みの内容に変化があるかに注目した。大学進学者、短大進学者、専門学校進学者のいずれも、「友達ができるか」は回答割合が8~10pt増加している。通学、下宿生活、部活やサークルなどのキャンパスライフをイメージする中で、特に「友達作り」に不安を抱きやすい傾向がわかった。



進路選択の満足度（100点満点評価）を聞くと、いずれの進学先区分においても「90～100点」の回答割合が最も高く、80点以上で半数を超えている。なお、進路満足度が高いグループと低いグループとで、今回の調査の様々な設問の回答傾向を比較した。これについては別資料「大学進学予定者のクロス集計報告書」を参考にされたい。



進学後の学校生活で得たいものを聞くと、大学・短期大学では「具体的な将来の夢や目標」(大学 53.3%、短期大学 54.5%)、専門学校では「資格」(60.5%)がトップとなった。



本資料に掲載のデータ、図版等の無断転載を禁じます。資料のご利用やご質問等に関しては下記までご連絡ください。

株式会社マイナビ 未来応援事業本部 マイナビ進学総合研究所

E-mail : ms-souken@mynavi.jp

URL : <https://souken.shingaku.mynavi.jp>